

第4章

研究結果の検証

— アンケートにみる生徒の変容と課題 —

1 検証にあたって

本章では、2年間にわたる研究実践の成果について、主として本校地理歴史科で実施してきた「授業・学習アンケート（以下「アンケート」と記す）」の結果から検証していきたい。「アンケート」は、各年度で前・後期に1回ずつ行った（前期6月・後期11月）。ただはじめに断っておくが、報告書原稿の道教育委員会への提出期限が例年12月初旬までとなるため（文部科学省担当官の了解を得るための時間も鑑みると、少なくとも11月上旬には成果と課題まとめる必要がある）、まだ後期の半ばにも達していない11月時点でのアンケート結果をもって「1年間の結果」とする点については、やむを得ないこととはいえ正直なところ難がある。

また、年間の99%が発問のない講義形式（チョーク&トーク）の授業で、1%の研究授業が「アクティブ・ラーニング」の授業であったとする。その1%の授業に対するアンケートによって得られる結果は、必ずや「意欲的に取り組んだ」「より理解が深まった」など良いものとなるであろう。たしかにそれは「アクティブ・ラーニング」の有用性を示す一根拠ではあるかもしれないが、その1時間のみで「見方・考え方」や「思考力・判断力・表現力等」が育成されるはずはないのである。

ここで本校の「科目相互の連携を図った授業実践」が、34～36ページに示した「単元構成モデル（科目全体や単元等を見通した問い）」をベースとした、年間を通じた継続的な授業実践であることを改めて強調しておきたい。誌面の制限上、第2章「授業実践の研究」においても「世界史A」「日本史A」から一単元ずつしか紹介できなかったが、本校ホームページ等において幾つかの授業実践や研究報告、ワークシート・評価問題等を掲載しているので、参照していただきたい。

さて、2年間で計4回（年2回）実施した「アンケート」の結果については、過去4回分すべて本校ホームページにて公表している。本研究実践では、「歴史総合」を想定した「世界史A」「日本史A」における連携に取り組んできた。そこで本章では、全体傾向もさることながら、「日本史A」を選択した2学年の生徒（1年次に「世界史A」を履修）の変容について主として取り上げ、研究の成果と課題についてまとめていきたい。

ここから先の報告については、北海道伊達緑丘高等学校ホームページに掲載されている「アンケート結果(平成 29 年度・後期)」を併せてご参照ください。

2 学校や家庭での生活と学習状況

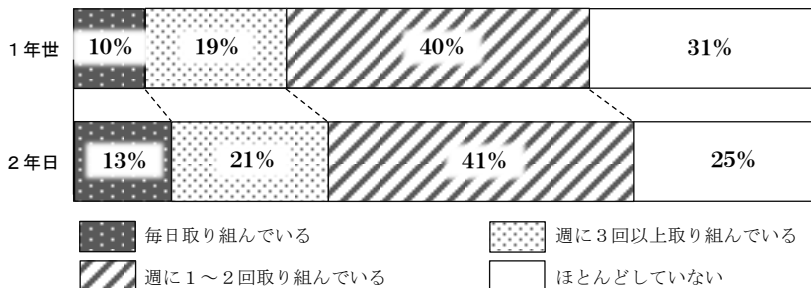
第一は、生徒の学校生活と学習状況(主として家庭学習)等について質問した結果である。はじめに、平成28年度の「北海道学力等実態調査」の結果(平成28年度に科目相互の連携を踏まえた「世界史A」を履修した生徒を対象)では、高校入学前に比べ「学習意欲が高まった」と回答した生徒は、前年度の46.5%から64.1%に上昇した。同様に「学習時間が増えた(読書を含む)」と回答した生徒も、前年度の36.8%から47.6%に上昇した※1。本校で実施した「アンケート」においても、「前年に比べて家庭学習の時間はどう変化したか」という質問に対して、2学年生徒の84%が「増えた」と回答した(16%が「減った」と回答)。

◇入学前との意欲の変化(北海道学力等実態調査)

	高校入学前に比べ学習意欲が高まった	高校入学前に比べ授業以外の学習時間が増えた
本校	46.5% (H27) → 64.1% (H28)	36.8% (H27) → 47.6% (H28)
全道	66.7% (H27) → 67.2% (H28)	57.0% (H27) → 57.6% (H28)

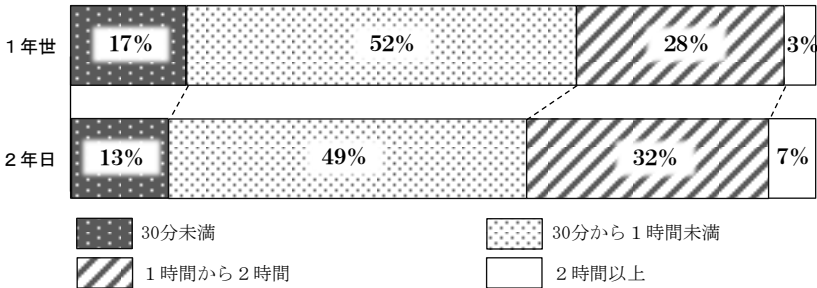
また、「どのくらいの頻度で家庭学習に取り組んでいるか」については、「毎日取り組んでいる」が10%程度、「週に3回以上」が20%程度、「週に1～2回」が40%程度、「ほとんどしていない」が30%程度であったのに対し、「1回あたりの家庭学習でどのくらい時間をかけているか」については、「1時間以上」と回答した生徒が30～40%であり、60～70%の生徒は「1時間未満」と回答した。

◇どのくらいの頻度で家庭学習に取り組んでいるか



※1 平成 29 年度の「北海道学力等実態調査」(29 年度 1 学年の生徒を対象)は平成 30 年 3 月実施の(結果公表は平成 31 年度中)ため、本研究紀要で報告できないことを理解願いたい。

◇ 1回あたりの家庭学習でどのくらい時間をかけているか



ただし、これらの家庭学習には授業で与えられた「課題や宿題」等も含まれる。では「課題や宿題」を課さないとなればどうかと問われると、生徒の多くはゲームやインターネット等に興じ、テスト前にならなければ家庭学習をしないであろう。アンケートで「先生が宿題や小テストの実施などを課さなければ、家庭学習の時間は減ってしまうと思うか」という質問をしたところ、約80%の生徒が「そう思う」と回答した。高い学力層の超進学校（難関校の受験生が多い）を除いては、どの学校も「いかにして主体的・自主的に学ぶ生徒を育てるか」が課題となっているであろう。本校も例外ではない。地理歴史科を問わず、学校全体の課題として様々な方策を講じては「スモールステップアップ」を図っているところである。そして言うまでもなく、根本は教師一人ひとりの資質向上と「授業改善」にあると痛感する。

3 学習動機や学習方法についての意識の変容

第1章の第2節（7～14ページ）において、生徒の学習動機や学習方法の意識について、市川伸一氏の分析モデルを活用し、その傾向を把握した。ここでは、その変化について報告したい。

はじめに「学習動機」については、現2学年の生徒が1年次（11月）のときに実施した結果が図1である（8～9ページのとおり）。そして、現2学年の生徒のうち、2年間にわたり科目相互の連携を図った学習を行ってきた「日本史A」を履修した生徒の結果が図2である。結果的には上昇も下降も劇的な変化はみられなかった。ただ強いて言うなら2年間で、「学習の楽しさを味わうため」といった充実志向の平均得点が2点伸びた。6つの類型における質問結果（一部）も併せて参照していただきたい。

図 1 現 2 学年の生徒が「1 年次 (11 月)」のときの結果 (全体平均)

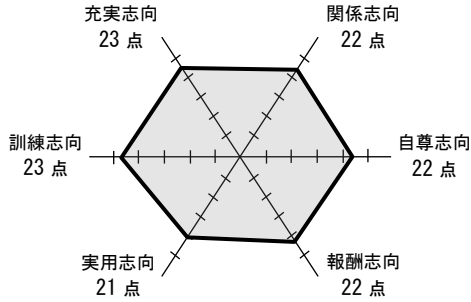
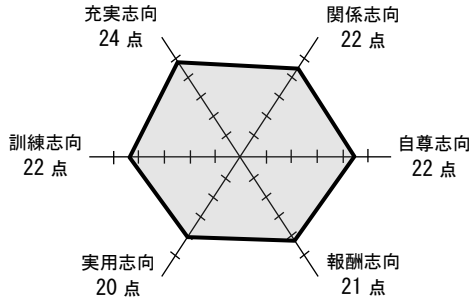
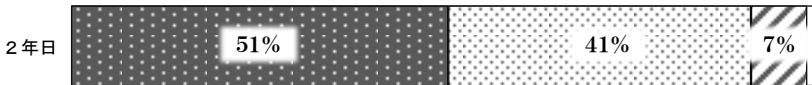


図 2 現 2 学年の生徒で「日本史 A」を履修した生徒の結果 (11 月)



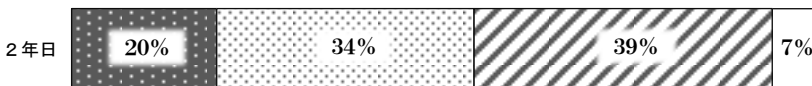
◇何かがわかる (できる) ようになっていくことは楽しいと思う (充実志向)



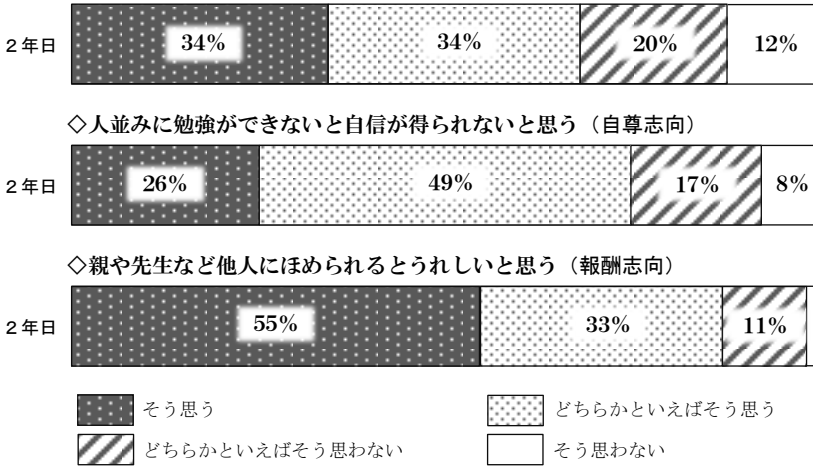
◇勉強しないと筋道を立ててものごとを考えることができなくなると思う (訓練志向)



◇学習によって得た知識や技能を「使う喜び」を味わいたいと思う (実用志向)



◇一人よりみんなで勉強するほうが楽しいと思う (関係志向)



「そう思う」を5点、「どちらかといえばそう思う」を4点、「どちらかといえばそう思わない」を2点、「そう思わない」を1点として得点を算出した。

一方で「学習方法」についても同様に比較すると、全体としては「学習動機」と同じく劇的な変化は見られなかったものの、本来伸ばすべき志向である「思考過程の重視」や「意味理解志向」の平均得点が減少する結果となってしまった。質問はあくまで学習全般に対する意識として回答させており、地理歴史科の学習に限定したのではない。とはいえ2学年ともなると、1年次よりは成績結果等が意識されるようになり、「テストや模試で良い点数を得る」ためには「途中過程よりも答えが合っているか」「意味理解よりも用語の暗記（質より量）」が大切であるとの意識がどうしても働いてしまうのかも知れない。

図3 現2学年の生徒が「1年次（11月）」のときの結果（全体平均）

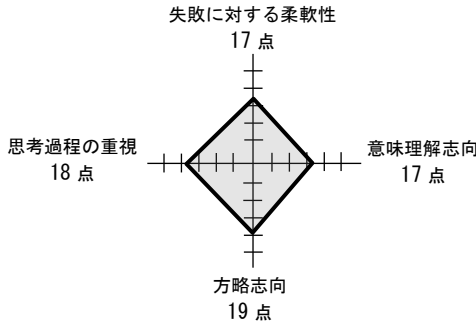
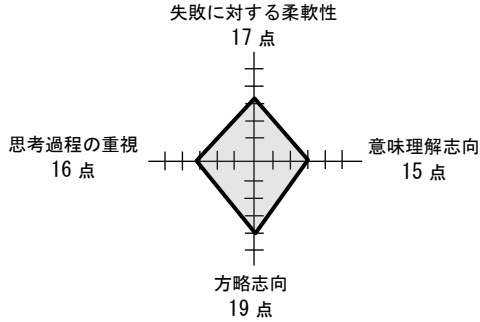
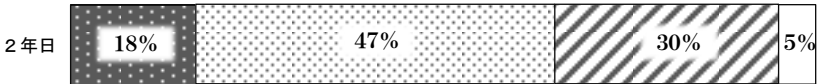


図 4 現 2 学年の生徒で「日本史 A」を履修した生徒の結果 (11月)

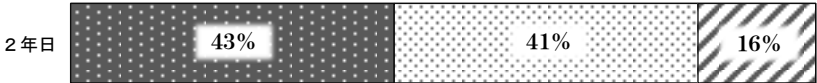


《失敗に対する柔軟性》

◇思い通りにならないとき頑張って努力してみようとするほうだ

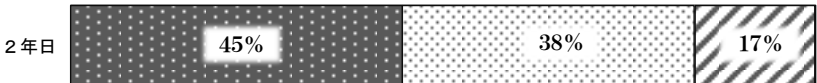


◇うまくいきそうにないと感じるとやる気がなくなってしまう



《思考過程の重視》

◇テストでは途中過程よりも答えが合っていたかどうか気になる



◇正解のない問題や課題に取り組むことは無意味だと感じる



《方略志向》

◇勉強時間(量)よりも勉強方法(質)のほうが重要だと思う



◇勉強のしかたをいろいろ工夫してみるのが好きだ



《意味理解志向》

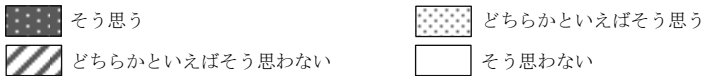
◇なぜそうなるかはあまり考えず答えを暗記してしまうことが多い



◇図や表で整理しながら勉強するようにしている



◇習ったことどうしの関連をつかむようにしている



ただ、個々の質問に対する回答では、「正解のない問題や課題に取り組むことは無意味だと感じる」（思考過程の重視）に58%の生徒が否定的回答を示している（研究当初24%）ほか、意味理解志向の「図や表で整理しながら勉強するようにしている」に肯定的回答を示した生徒が46%（研究当初35%）、同様に「習ったことどうしの関連をつかむようにしている」が57%（研究当初36%）と研究当初に比べ上昇した。

以上のとおり、生徒の「学習動機」や「学習方法」については、大幅に良い方向へと向かわせることはできなかった。とはいえ、個々の質問項目として意識の向上が見て取れるものもあった。

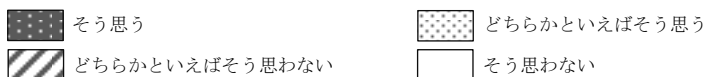
アンケートの手法にも若干問題はあるかも知れないが、地理歴史科の授業だけで改善させることは容易でないと思われる。前節の「学習状況」と同様に、この「学習動機」や「学習方法」についても、学校全体のカリキュラム・マネジメントとして取り組んでいかななくてはならない課題ではなからうかと考える。

4 地理歴史科の教育課程や授業に対する生徒の評価

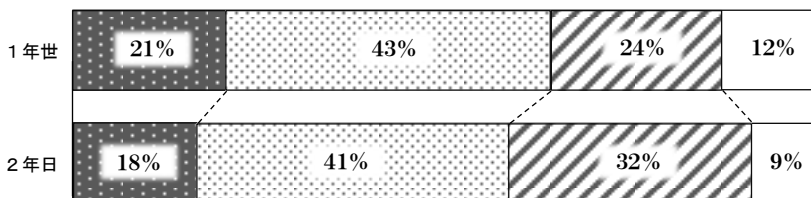
ここでは「世界史A」「日本史A」における生徒の授業に対する評価について検証する。はじめに、本校地理歴史科の教育課程（カリキュラム）の在り方に関して尋ねた質問の結果は次のとおりである。本研究では、「地理との関連」をあまり重視してこなかったため、「地理」に関する評価はやや低い傾向にあるかも知れないが、「世

界史」と「日本史」との関連に触れることで、より歴史の全体像をつかむことができるとの認識を深めさせることができた。「好きか嫌いにかかわらず、世界史・日本史・地理すべてを学ぶことは大切か」との質問に対しては、1学年の生徒における肯定的回答が60%であったのに対し、2学年「日本史」履修生徒では79%であった。このことから、約80%の生徒が2年間の地理歴史の授業を通して、「世界史・日本史・地理」との関連を学ぶことの大切さを肯定的に捉えていることがわかる。

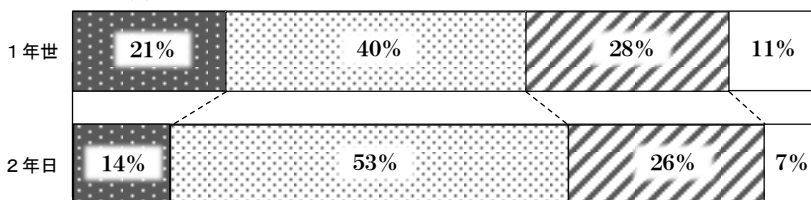
地理歴史科のカリキュラムに関するアンケートの結果



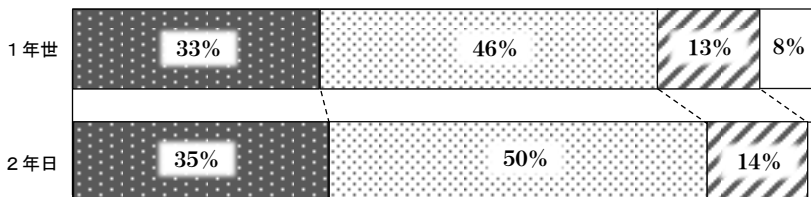
◇「世界史」を学習するまえに「地理」を学習したほうが、より「世界史」への理解が深まると思う



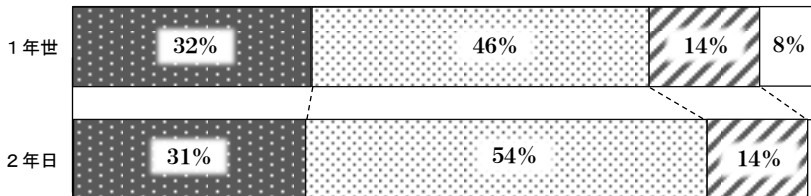
◇「日本史」を学習するまえに「世界史」を学習したほうが、より「日本史」への理解が深まると思う



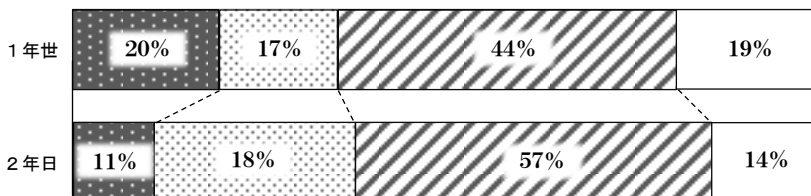
◇「世界史」の授業において「日本史」との関連に触れることで、より「世界史（日本を含めた歴史全体像）」への理解が深まると思う



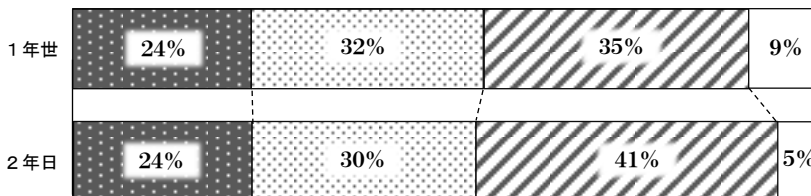
◇「日本史」の授業において「世界史」との関連に触れることで、より「日本史（世界を含めた歴史全体像）」への理解が深まると思う



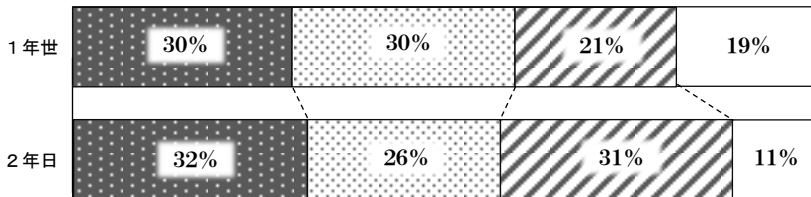
◇「地理」は全員必修とすべきである



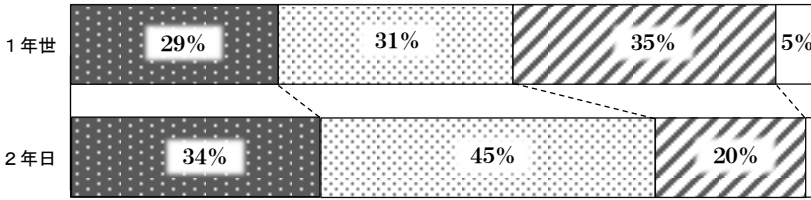
◇「世界史」よりも「日本史」を全員必修とすべきである



◇「世界史」と「日本史」を別の科目とするのではなく、むしろ「歴史総合」として一つの科目にするのがよいと思う

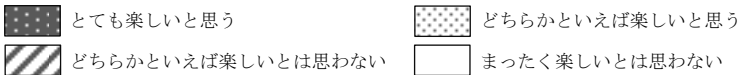
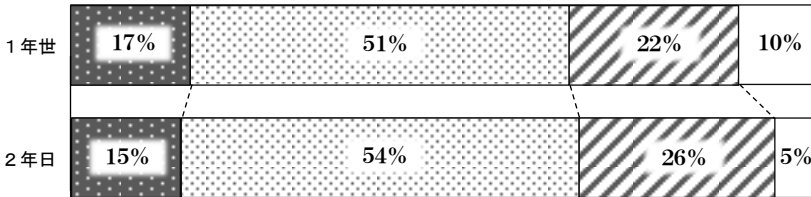


◇好きか嫌いにかぎらず、「世界史・日本史・地理」すべてを学ぶことは大切である



つぎに「世界史A」「日本史A」における日頃の授業について質問した結果が次のとおりである。「授業は楽しいか」という質問では、「世界史A」「日本史A」ともに約70%の生徒が肯定的回答を示した。また、「他の科目に比べて歴史は得意か」では「得意である（どちらかといえば得意である）」が「世界史A」で46%、「日本史A」で59%となっている。この2つの質問については、理由についても記述させた。

◇授業は楽しいか



《「とても楽しいと思う」の理由》

- ・昔の出来事を学ぶことで、世の中がどう変わってきたのかわかるから。
- ・前までそう思わなかったが、興味がわいてやってみたら楽しかった。
- ・好きなアニメやゲーム、マンガのキャラの元ネタの人物が出てくるから。
- ・世界史など昔にどんな人がどんなことをしたのかや何があったのかを知るのが好きだから。
- ・今まで歴史上でおこったことをなぜ起こったのかなど自分で考えるのが好きだから。
- ・日本の事や日本と世界の共通性などを学ぶことができるから。
- ・世界史との関連を持ちだすことによって復習かつ新たな知識を取り入れられるから。

《「どちらかといえば楽しいと思う」の理由》

- ・日本史はあまり得意ではないので、とても楽しいとまではいかないが、友達とのペアワークやグループワークが楽しい。
- ・大きな問いに対し、ペアやグループで話し合い答えを出していけるから。
- ・ペアワークやグループワークがあり、自分の意見も発表できて、他の人の意見も聞くことができるから。
- ・苦手ではあるが、世界史も知らないと今の日本の成り立ちがわからないと思うから。

- ・中学校で1度習ったことのある内容でも、高校ではより詳しく内容を理解することができるから。
- ・世界の色々なことが知れて、前わからなかったことをくわしく知ることができ、各国について知ることができるから。
- ・つなげて覚えることが可能だから。だが、人名などはわかりにくい。

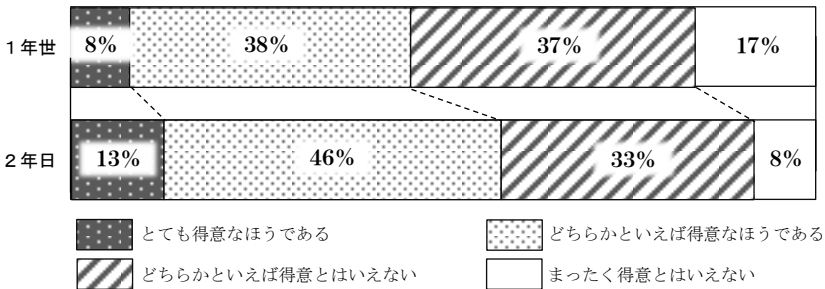
《「どちらかといえば楽しいとは思わない」の理由》

- ・他国の歴史を学ぶことは楽しいが、授業スタイルはあまり自分の好みではない。
- ・世界史について興味が無いし、好きではないので学んでいて楽しいとは思わない。
- ・自分は歴史は苦手と特に世界史はわからないものが多く、少し頑張っているが、好きにはなれないから。
- ・聞いたことない言葉ばかり出てきたり、カタカナ・漢字を覚えるのが大変だから。
- ・日本史だけでも難しいけど、さらにそこに世界史が入ることでごちゃごちゃになって頭が追いつかないから。
- ・世界史の内容が絡むと日本の出来事と外国の出来事が混ざってしまい分からなくなるから。
- ・内容が中学と比べて難しいから理解したり覚えたりするのが大変。

《「まったく楽しいとは思わない」の理由》

- ・昔の時代の事を学ぶのは大切かもしれないけど、別に楽しいとは思わないから。
- ・暗記系の教科なので暗記が苦手な自分は辛く、勉強が苦痛に思うことがあります。
- ・覚えることが多すぎて頭パンクする。世界のことはやらなくてもいいと思っている。
- ・何をやっているのか意味不明。世界について学ぶ必要ない。
- ・暗記しなければならぬものが多く、色々わからなくなってしまう。
- ・嫌いな教科のため、まずやる気がでないから楽しくない。

◇好きか嫌いに関わらず、他の科目と比べて「歴史」は得意なほうか



《「どちらかといえば得意とはいえない」の理由》

- ・どれがどの時に起こったのかが分からなくなってしまうから。年号とか。
- ・覚えることが多く、人の名前や地名が分かりにくいから。
- ・各国のことを知ることはできるが、その分覚えることも多く、覚え方がわからないから。
- ・年代や人物名を覚える事ができず、それに関連した事件も覚えることができない。
- ・日本の歴史だけならまだ得意だけど、世界史も加わってくるとわからなくなる。
- ・暗記が苦手と高校に入る前からあまり得意ではない。でも少しずつ得意になりそうな気がしている。
- ・中学の時は好きだったけど、高1の世界史で勉強してもなかなか点数が上がらなかった。

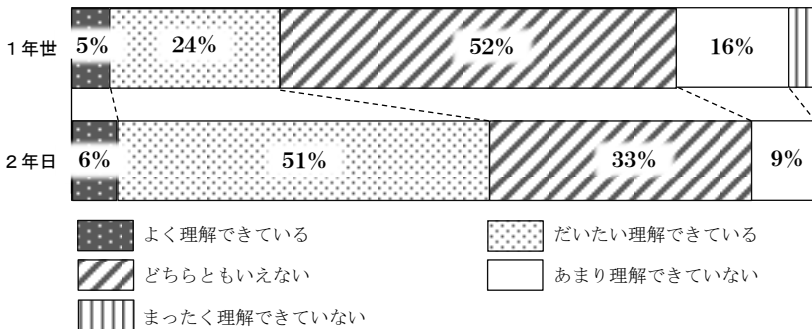
《「まったく得意とはいえない」の理由》

- ・暗記は苦手なので文による記述で答えるならまだ楽ですが、答えが1つのものはダメです。
- ・年号を覚えるとき、良いゴロみたいなものがあればできるが、普通に覚えるのが難しい。
- ・一部だけを覚えてもそのつながりも覚えなくてはダメなので勉強法がわからない。
- ・まず暗記を主とする教科が苦手で、特に歴史と関連づけるのが難しいから。
- ・単純に暗記が苦手で、かつ流れをつかむのも苦手なので不得意である。
- ・テストの点数が低いから。覚えるのが大嫌いだから。

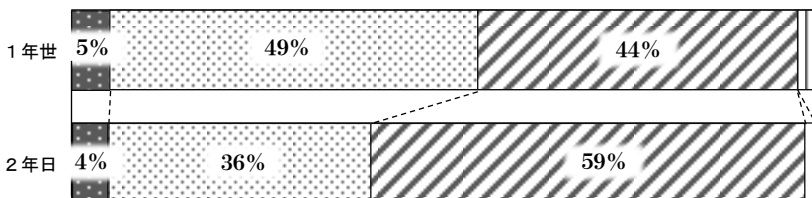
上記の記述にもあるとおり、「楽しくない」「得意とはいえない」理由として、やはり「覚えることがたくさんある」といった暗記に対する苦手意識が多く記述されている。なかには、「関連付けることでより覚えることが増える」「世界史と日本史の知識が混ざって分かりにくい」との意見もあった。

そうした難しさもあってか、「授業内容は理解できるか」との質問については「よく理解できている」「だいたい理解できている」と回答した生徒が「日本史A」で57%であったのに対し、「世界史A」では29%にとどまった。また「授業のレベル（難易度）はどうか」という質問に対しては、「世界史A」で55%、「日本史A」で40%の生徒が「とても難しい」または「少し難しい」と回答した。

◇授業内容は理解できるか



◇授業のレベル（難易度）はどうか





たしかに授業が成立する必須条件として、中学時までの基本的事項が定着していること、考える前提としてある程度の知識が必要であることは否定できない。本校でも、時間的・空間的認識が不十分であったり、教科書の漢字が読めない、語彙力・読解力が不足していたりする生徒は少なからずいる。そうした生徒にとって授業は理解しにくく、場合によっては苦痛であるかも知れない。

しかし知識を教えることも大切だが、これからはむしろ「考える（思考・判断・表現）ことで知識や概念が習得されていく」視点へと発想を転換させていかなければならない。今回の学習指導要領改訂では、質の高い理解を図るための授業の質的改善を行い、知識量（内容）の削減は行わないとしている。生徒も教員も「結局のところ知識がなければ好成绩も受験突破もない」といった懸念を抱いている。そうならないためにも、授業改善はさることながら、高大接続改革等で示された大学入試等の改善の方向性が、しっかりと現実のものとならなければならない。

本節の最後に、1学年・2学年それぞれにおいて地理歴史を含む「主要5教科」に対し「①この科目が好きだ」「②授業内容は理解できる」「③意欲的に授業に取り組んでいる」「④テストは難しいと思う」「⑤もっとレベルの高い授業をしてほしい」「⑥話合いやグループ学習等の時間がある」「⑦宿題がよく出される」「⑧家庭学習に取り組むことが比較的多い」の8項目について4段階（とてもそう思う・どちらかといえばそう思う・どちらかといえばそう思わない・そう思わない）で評価させた際の「世界史A」「日本史A」の結果を示す。

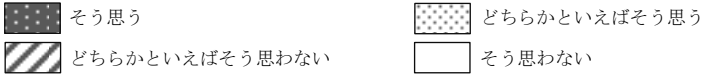
	1年「世界史A」	2年「日本史A」
①この科目が好きだ	65% (58%)	52% (47%)
②授業内容は理解できる	60% (68%)	80% (65%)
③意欲的に授業に取り組んでいる	76% (77%)	79% (70%)
④テストは難しいと思う	88% (80%)	77% (61%)
⑤もっとレベルの高い授業をしてほしい	13% (21%)	4% (11%)
⑥話合いやグループ学習等の時間がある	95% (40%)	98% (24%)
⑦宿題がよく出される	49% (41%)	82% (36%)
⑧家庭学習に取り組むことが比較的多い	22% (31%)	65% (40%)

※上記は肯定的回答（とてもそう思う・どちらかといえばそう思う）の割合。

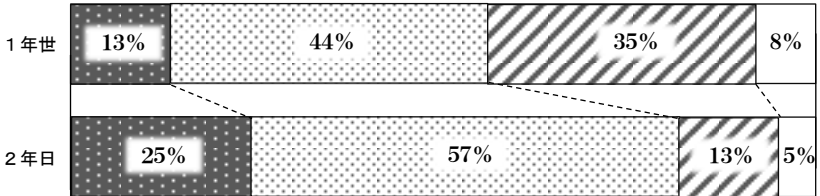
※（ ）内の数字は地理歴史以外の主要4教科（国語・数学・理科・外国語）の平均割合。

5 世界史・日本史の関連を学ぶ意義

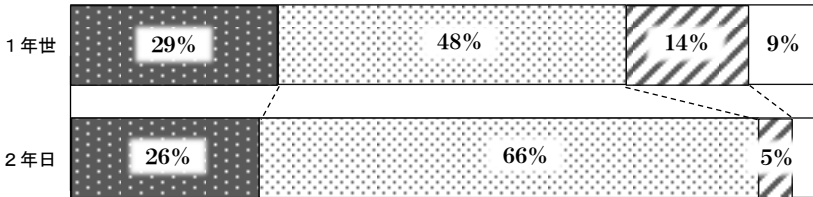
最後に、本研究のテーマである「科目相互の連携（とくに「世界史」「日本史」との関連）」の成果について、「アンケート」結果から検証したい。



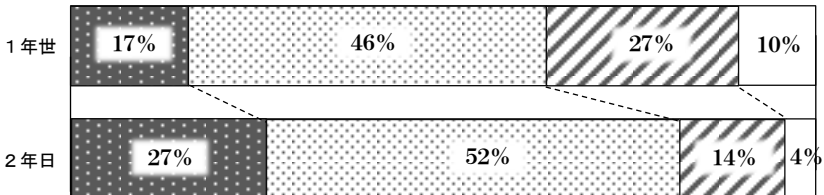
◇授業を通して「世界史と日本史はつながっている」と実感しているか



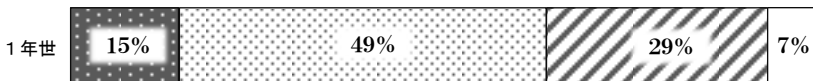
◇現在の「世界史/日本史」の授業のなかで、「日本史/世界史」との関連（つながり）を学ぶことは大切であると思うか



◇（世界史・日本史にかぎらず）歴史を学ぶことは多様な社会を生きる上で必要であると思うか



◇「世界史」の授業の中で「日本史の内容」あるいは「世界と日本との結び付き（つながり）」に触れることは、世界史の内容理解や苦手意識の克服に一定の効果があると思うか（※「世界史A」の生徒のみ回答）



以上のとおり、「世界史」と「日本史」の関連を学ぶことの意義や大切さについては、いずれも半数以上の生徒から肯定的回答を得ることができた。とはいえ、「世界史A」を学習している1学年生徒と、「日本史A」を学習している2学年生徒との間では、若干の温度差が見受けられる。特に「授業を通して世界史と日本史がつながっていると実感しているか」という質問に対して、1学年生徒の肯定的回答は57%にとどまった。授業では適宜「日本史との関連」や「世界と日本の比較」について取り上げてきたつもりであるが、やはり内容の大半が「世界史」であることが要因であるとともに、中学校までの日本史を中心とする歴史的分野の学習内容とのギャップもあるものと思われる。

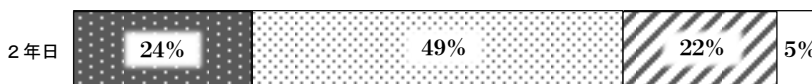
このような傾向は、現2学年生徒が1年次の時も同様であった。しかしながら、2年間かけて「世界史・日本史の関連」について授業してきた2学年生徒の結果はいずれの質問項目も肯定的回答が70%を超えた。一方で、「世界史に対する苦手意識の克服」は研究当初から課題の一つであったが、「世界史の授業の中で日本史の内容や関連に触れることは、世界史の内容理解や苦手意識の克服に効果があると思うか」との質問に対し、生徒の15%が「とてもそう思う」、49%が「どちらかといえばそう思う」と回答した。すなわち、世界とその中における日本を広く相互的な視野から捉えた授業を行うことで、従来の「世界史」に対する苦手意識の克服につながる可能性を見出すことができた。

いずれにしても、「歴史を学ぶことは、多様な社会を生きるうえで必要であると思うか」という質問項目に、「世界史A」では63%、「日本史A」では82%の生徒から肯定的回答を得ることができた。もちろん否定的に回答した生徒の状況も看過できない。その理由について述べた生徒の記述回答については後ほど触れる。

つぎに、「日本史A」を学習している2学年生徒が、2年間の「科目相互の連携を図った授業」を振り返り回答した質問項目の結果について示したい。



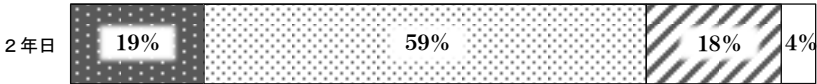
◇1年次の「世界史」の学習が、現在の「日本史」の学習に活かされていると思うか



- ◇「世界史」「日本史」の授業を通して、世界や日本との結び付きや相互の歴史・文化、現代に起こっている諸問題についての関心が高まったと思うか



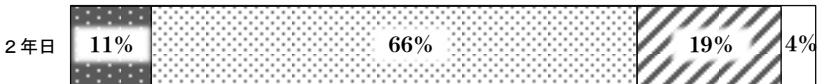
- ◇「世界史」「日本史」の授業を通して、思考力(考える力)や表現力(文章やレポートにまとめたり、発表したりする力)が高まったと思うか



- ◇「世界史」「日本史」の授業を通して、知識の吸収だけでなく、歴史的な見方や考え方(歴史をとらえる視点)を身に付けることができたと思うか。

【歴史的な見方や考え方の例】

- ・時代が進むにつれて、どのような変化がみられたか(推移)
- ・異なる地域や国で、どのような共通点や相違点がみられたか(比較)
- ・その出来事は、どのような背景や原因のもとで発生したか。また、どのような結果や影響をもたらしたか(因果関係)
- ・複数の意見や立場を踏まえて選択したり、判断したりする



以上のとおり、2年間にわたる授業については、平均して約70%の生徒から肯定的回答を得ることができた。とくに「思考力や表現力が高まったと思うか」の質問では78%の生徒が「高まった」と回答したほか、研究の到達目標(ゴール)である「見方・考え方の育成」についても、77%の生徒が「身に付けることができた」と捉えている。しかしながら、「現代に起こっている諸問題についての関心が高まったと思うか」に対する肯定的回答が62%と7割を下回っており、もちろん授業では折に触れて「問いかけ」をしているものの、結果としては課題が残った。社会的事象に対する関心や態度は、学習プロセスを通して涵養されていくものである。本章冒頭に述べたとおり、「アンケート」自体がまだ半期を終えて間もない11月に実施したものであり、関心を高めるにはもう少し時間を要したかも知れない。あるいは、過去の歴史から現代の諸課題につなげるアプローチだけでなく、現代の諸問題からその発生要因等について歴史から紐解いていく単元の展開があってもよかったと振り返る。

最後に、「アンケート」において生徒に自由記述させた質問項目について取り上げたい。自由記述にて回答する質問内容は次のとおりである。

【1年・世界史A】

- A 「世界史」の授業において、世界と日本との結び付き（つながり）について学ぶことが大切であるのはどうしてだと考えますか。
- B 歴史を学ぶ意義（歴史を学ぶ大切さ、なぜ歴史を学ぶ必要があるか）について、あなたはどう捉えていますか。

【2年・日本史A】

- A 歴史を学ぶ意義（歴史を学ぶ大切さ、なぜ歴史を学ぶ必要があるか）や、世界と日本との結び付き（つながり）について学ぶことの大切さについて、その理由を述べてください。
- B 日頃の授業（授業スタイル）についての感想について述べてください。

※解答欄は「左右幅8.0cm×4行」である。

誌面の都合上、全ての記述を掲載することはできないが（本校ホームページ掲載の「アンケート結果」にて確認できる）、ここでは「日本史A」におけるAの設問（歴史を学ぶ意義、世界と日本の関連を学ぶ意義）に対する生徒の記述について、全て掲載する。60字程度の短い一文だが、生徒一人ひとりの捉え方が表出されている。

「日本史A」生徒による《設問A》に対する自由記述の回答

- (1) 現在の生活があるのは、昔の人が積み重ねてきたものがあるため、参考にできるようなものが何かあるはずだから。
- (2) 常識として自分の国の歴史は知っておくべきだし、昔の良い面悪い面を今に活かすことも出来るし、それが大切だと思うから。
- (3) 世界が（他の国）こんな事が起きていたときに日本はどんなことが起きていた、ということを知ることは共通性があつたりするので大切だと思います。
- (4) 歴史を学んで将来役に立つかはわからないが、日本と世界のつながりを学び、世界との交友関係を知ることが大切かなと思った。
- (5) 過去におきた出来事を学ぶことと、同じあやまちをおかさないように取り組んでいけるし、時代の乗り越え方などを知って同じようなことがおきた時の対処法が学べると思うから。
- (6) 歴史を学ぶことにより現在における宗教活動や政治の意味などが深く追究できるのではないかとと思う。
- (7) 今ある憲法ができた理由とか、なぜこの法律があるのか等、先人と同じ過ちをくり返さないために学ぶことが大切だと感じた。
- (8) 自分の国の歴史を学ぶことで世界とどのようなつながりがあったのかや、日本はどのような今にいたるかを知るのには大切だと思う。
- (9) 今の日本がどうやってできたのかを知るためにも必要である。また、戦争の被害・残酷さを知り、二度と起こさないようにするためにも大切。

- (10) 今の日本がこうして生きていられるのは過去の長い歴史があっただから、世界史で世界のことを知り、日本史でさらに深く日本を知るとは良いと思う。
- (11) 今の機械や車なども外国から学んで作られたわけだから、その昔にどういう風に関わって今になっているのかを知るとはとても大切だと思う。
- (12) 日本人として先祖達がどういう事をして日本をつくってきたのか知るべきだし、現代の国際社会では海外の事を知るとも大切だと思う。地理も役に立つ場面はたくさんあると思う。
- (13) 日本人だとしたら生まれた国の事と世界との関係は最低限知っておくべきだと思うから。
- (14) 人類が二度と同じ過ちを繰り返さないため、良い成績を取るために必要となってくると考えております。
- (15) 過去のあやまちをまた繰り返さないためってきたことあるけど、くまなく知る必要がないと思う。おおまかに考え方がわかれば十分だと思うから。
- (16) 今の世界で起きていることは、昔にあったできごとが理由になっているので、それを学べるからです。
- (17) 過去にあった出来事を見つめ直すことで新しい今の時代を違う観点からもう一度見つめ直すための日本史。
- (18) 歴史を学ぶことで、以前起こったことを教訓に生活ができるようになるし、世界と日本との結びつきについて学ぶことでどのような関係であったのかを知る機会だから。
- (19) 昔、日本が世界に対して行った良いことや悪いことを知ることで、違う国に旅行などをしたとき、言ってはいけないことなどでトラブルを起こさないため。
- (20) 日本と世界の今までであったことやそれに関わる人物を知っていくことは生きていく上で、とても大事なことで、今後も学ぶことがたくさんあること。
- (21) なぜ今の日本がこのようになっているのかを知るには今までの世界と日本の結び付きの歴史を知ることが大切だと思うから。
- (22) 自分たちの国である日本が今どういう経緯で存在しているか知ることは必要だと思う。世界で起きた出来事が日本に影響することも多いから、結びつきを知るのは大切。
- (23) 時の流れは日本も外国も同じだから。学ぶことにより二度と同じあやまちをくり返すことがないように自分たちが社会を作っていけると思うから。
- (24) これから社会がどう動いて変わっていくかはわからないけど、歴史を学ぶことで以前にあった出来事を踏まえて社会を作っていくことができると思うから。
- (25) 日本の歴史だけを学んでも、世界で何が起きているかわからないと駄目だから。結び付きがあるから学ばなきゃいけない。
- (26) 世界と日本の結び付きを学ぶことによって、昔の外交関係や事件など、多様な面から現代に至るつながりを知れるから。
- (27) 過去の出来事や人物の行い、事件から歴史上の成功、失敗したことを学んで現代に生かすこと。
- (28) 昔の話とか今何かに役立ってはいないけど、昔の出来事とか位置を知っておけば今につながるから役に立たなくても知っておいたほうがよい。
- (29) 日本史や世界史を学ぶことで、自分の住んでいる国についてより詳しく知ることができるし世界とのつながりを学んで、現在とつなぎ合わせて考えられるから。
- (30) 今、自分の住んでいる日本では昔、何が起きていたのか、と知ることがこれから生活していく中で重要だと思うから。
- (31) 日本だけでなく世界で起きた様々な出来事を知るとはとても大切であり、過去の過ちを将来的に繰り返さないようにするために、歴史を学ぶことが大切だと思う。
- (32) 歴史を学ぶことで、自分の知らなかったことを知れて、自分の国のことについて理解とか深まってくると思うから、歴史は学んだ方がよいと思う。
- (33) 世界や日本の歴史を学ぶことで、なぜ今の日本や世界があるのかを知ることができるから。
- (34) 日本の歴史を学ぶことで、理解が深まるし、将来に生かすことができる。世界への理解も深まる。

- (35) 世界と日本の結び付きについて学べば、将来自分が外国へ旅行に行っただとしても、その国の今の文化と結び付けて学ぶことができるから。
- (36) 歴史を学ぶことによってたくさんの政治の失敗例を見ることができるから内閣総理大臣を選んだり、投票する面で前例を考えて投票できたりするから。
- (37) 日本が昔どういう風で世界とかかわってきたかが、今後の関係とかもかかわってくると思うので大切だと思う。
- (38) 昔の日本の歴史を知ることによって昔にあった政治のいいところを真似したり悪いところをまた繰り返さないようにするため。
- (39) 日本史は日本とかいてあるのだが、世界との結び付きのほうが多い。
- (40) 今と昔のちがいがとか、どんな風で今の時代のようになったのかとか昔は関わりがあった国とかを知るため。
- (41) 過去と今や日本と世界との同じ所や、違ったところなどの文化を知るため。
- (42) 昔の日本の事を知る事ができれば昔日本がやってしまった失敗を振り返る事ができ、その事件を二度と起こさないようにできると思う。
- (43) 今のことだけではなく、過去になががあったか、などを知ることが大切だと思う。他国とも日本は関係があるから、結び付きも知っていくという事が大切だと思う。
- (44) 先人の失敗を見て成功を増やす。
- (45) 自分が生まれた国の歴史を知ることが大切だと思います。地理は現状の日本を知ることができるのが利点だと思います。
- (46) 今の平和な時をつくるため、色々な人が携わり、たくさんの犠牲で今の時代がある大切さを学べる。世界の出来事が日本にも影響しているから。
- (47) グローバル社会と化している現在の状態において、様々な国の知識を持つという事は重要な事だから。
- (48) 昔の事を知るによって今の国どうしの関わりが見えてくるし、それに対しての改善点がわかってくると思う。
- (49) 歴史を知り日本と世界の結びつきを学ぶことで今日本がどのような経緯でどのような立場におかれているかなどが理解できるようになる。
- (50) 歴史は自分が今いる所を知ることができると思うし、世界史では諸外国とのこれまでの関係を知り、今をより良くするために必要。
- (51) 今を生きている私たちにも過去の歴史や日本の問題にかかわってくる部分もある。歴史の部分で今も問題になっていることもあるから歴史は学ぶ必要があると思う。
- (52) 過去に日本や世界で何があったのかを知り、その失敗を成功に変えるためには歴史を学ぶのはいいことだと思う。
- (53) 戦争などについて学んだり、今の法律などに関係する出来事などを学べるから大切だと思う。日本人なら日本の歴史を少しでも知っておくべき。
- (54) 今なお続いている問題の事の発端はどこにあるのかを調べ、解決策を見つけられることができるから。
- (55) 歴史を学ぶことは特に大切だとは思わないが、意味はあると思う。将来進学などで必要になる時がくるかもしれないから。
- (56) 歴史を知っていく中で多くの「失敗」が発見できる。その「失敗」を現代社会でも繰り返すことのないように勉強する必要がある。
- (57) また同じ間違いをおこさないため。
- (58) 今まで日本や世界で起こった事について知ることによって、戦争や事件などたくさんの反省点がありましたが、それらを今後おこさないようにすることが出来ると思うからです。
- (59) 自分が生まれる前に、どこで何があっただという事が起きたから今の世界や日本があるんだという経緯を知るべきだと思うから。
- (60) 日本を学ぶことは、この国に生まれたからには学ばなければいけないことでもあるのと、諸外国の歴史と日本を照らし合わせることで、よりよい社会の付き合い方を学べると思う。

- (61) 歴史を学ぶことで、もっと世の中のことがわかるようになり、昔に何があって、今現在こういう状態にある、などの関連性がわかるから。
- (62) 歴史を学ぶことで、なぜ現代がこうなっているのかなど時代の流れをつかみ、昔の人々がどんな暮らしをし、今とどう違うのかわかる。
- (63) 世界ではどんなことがおきて日本に影響を及ぼしているか、世界の文化が今の日本の文化にどうつながっているか知ることができる。
- (64) 日本と世界の歴史を学び、今起きている問題にも関連していつていると思うから、現代の事を理解するのも歴史は必要だと思う。
- (65) 世界史と日本史を関連づけて学ぶことで人間の歴史や発展の全体像が見えてくると思う。
- (66) 日本の事だけを知るのではなく、世界と比べることでより知識の幅が広がるから大切なことだと思う。
- (67) グローバル社会として他国との関わりをもっと深めるべく昔のことも知っておくべき。
- (68) 過去を知ることで、今を理解できると思うので、理解したいなら学ぶ必要があると思う。
- (69) 世界と日本のかかわりを知るにより、その国の文化にふれ、理解することが出来ると思います。
- (70) 今の時代は国際化が進んでいるだけあり、外国とのかかわりが多いぶん、逆に危険が及ぶ恐れもあり、過去の同じあやまちを繰り返さないため。
- (71) 今の日本が形成されるまでの過程とかを知ることが常識として知っておきたいし、日本や世界に対して関心が深まると思うから。
- (72) 今まで日本が世界とどうつながって、どういう歴史があって、今の日本があるのか、今の世界とのかかわりがあるかを知ることが大切だと思うから。
- (73) 世界と日本間や自国のみの歴史がそれぞれの国の今を作りあげていると思うし、今日までの過程を知るとはとても大事だと思うから。

<否定的回答>

- (74) 私はまだ歴史を学ぶ意義がわからないので、これから大切だと思えるようになりたい。
- (75) 歴史を学ぶ大切さをまだ知れていないから書く事がない。具体的に知らないので教えてほしいです。

生徒が自由記述した歴史の意義等について大別すると、「物事や文化のルーツを知る」「社会的事象の意味を知る」「過去の失敗を教訓とする(過ちを繰り返さない)」「国際関係を理解する」などの回答が多くあった。否定的回答は2名であった。

以上のとおり、本章では「アンケート」結果などから、本研究における成果について吟味してきた。ここで改めて本校における「研究主題」及び「研究仮説」を再掲し、仮説や研究の重点等に基づいた成果と課題についてまとめた。

地理歴史科(世界史・日本史・地理)における科目相互の連携を図った授業実践の研究

《研究仮説》地理歴史科(世界史・日本史・地理)における科目相互の連携を図り、社会的事象の意味や意義、概念等を他科目と関連付けて総合的に捉えさせることで、地理歴史についての学習意欲や学力をより向上させることができるのではないかと。

本研究における成果と課題（○成果 ▲課題）

1 授業改善とその効用

- 単元の基軸となる「大きな問い」や1時間の授業で追究する「小さな問い」の設定など「問いの構造化」を図ることで、学習内容やねらい・到達目標が明確化され、生徒の学び（追究）に向かう姿勢などを向上させることができた。
- 多様な資史料を効果的に提示・活用した「問いの追究」やワークシートの工夫を図ることで、多面的・多角的に考察・構想する思考力・判断力・表現力等を育成することができた※1。
- ペアワークやグループ学習など、他者と意見を交わして議論したり、協働作業したりする過程において自己の学習活動を振り返らせ、学びを広げたり、つなげたりする「主体的・対話的で深い学び」を実現することで、生徒の学力や学習意欲を向上させることができた※2。
- ▲授業以外での学習時間については、研究当初に比べると増加はした（課題や宿題の効果が大きい）ものの、大幅な改善には至らなかった。
- ▲依然として「暗記科目である（考えるよりも覚えることのほうが大切）」との認識や、「世界史」に対する苦手意識が根強い。一方、「世界史」の授業で「日本史」との関連に触れることで、「世界史」の苦手意識が克服できるとの示唆が得られた。

2 科目相互の連携（特に「世界史」「日本史」）の効用とその意義

- 近現代の歴史を中心に、世界とそこにおける日本をそれぞれの視座から捉えさせることで、「時期」「推移」「比較」「因果関係」などの「歴史的な見方・考え方」を身に付けさせることができた※3。
- 「世界史」と「日本史」の関連を学ぶことの大切さ、多様な社会を生きる上での歴史を学ぶ意義を深めさせることができた。
- ▲一方で、学習が苦手な生徒にとっては「世界史と日本史が混ざって困惑する」などの意見もあり、科目相互の連携を図った授業における生徒の変容については、おおよそ7：3で二極化する傾向にあった。苦手とする生徒への工夫をいかに講じていくかが課題である。

※1 「アンケート」では78%の生徒が「思考力・表現力が身に付いた」と回答。また91%の生徒が「ワークシートが問いを追究したり、理解を深めたりする上で役立っている」と回答。

※2 「アンケート」における授業評価では、適宜グループ学習等を取り入れることで学びの楽しさを味わうことができるとの回答を多数得た。

※3 「アンケート」では77%の生徒が「見方・考え方が身に付いた」と回答。生徒の自由記述においても、そうした視点からの記述が多く見受けられた。